



平成 24 年 4 月 27 日

各 位

会 社 名 ヤスハラケミカル株式会社  
代表者名 代表取締役社長 安原 禎二  
(コード番号 4957 東証第二部)  
問合せ先 経理部長 石岡 直記  
(TEL. 0847-45-3530)

## 平成 24 年 3 月期第 4 四半期 投資有価証券評価損の戻入れ及び業績予想との差異に関するお知らせ

当社は下記のとおり減損処理による有価証券評価損の戻入れが生じることとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 23 年 10 月 28 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期の業績予想との差異が発生しましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の計上及びその内容

##### ○投資有価証券評価損 (73 百万円)

当社は、「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価あるいは実質価額が著しく下落し、その回復が困難であると認められたものについて、平成 24 年 3 月期第 3 四半期において減損処理による投資有価証券評価損を特別損失として計上しておりましたが、減損処理しました有価証券の株価の回復可能性が認められましたため、平成 24 年 3 月期第 4 四半期において、投資有価証券評価損の戻入れが生じましたことをお知らせいたします。

##### ○平成 24 年 3 月期第 4 四半期の投資有価証券評価損

	個別
(A) 平成 24 年 3 月期第 4 四半期会計期間(平成 24 年 1 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)の投資有価証券評価損の総額 (=イーロ)	△73 百万円 (△: 戻入益)
(イ) 平成 24 年 3 月期第 4 四半期累計期間(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)の投資有価証券評価損の総額	－百万円
(ロ) 直前四半期(平成 24 年 3 月期第 3 四半期)累計期間(平成 23 年 4 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日まで)の投資有価証券評価損の総額	73 百万円

(注) 1. 四半期における投資有価証券の評価方法は、洗替え方式を採用しております。

2. 当社の決算期末は 3 月 31 日であります。

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	個別
(B)平成23年3月期末の純資産額	15,830百万円
(A/B×100)	△0.5%
(イ/B×100)	－%
(C)最近5事業年度の経常利益額の平均	844百万円
(A/C×100)	△8.7%
(イ/C×100)	－%
(D)最近5事業年度の当期純利益額の平均	511百万円
(A/D×100)	△14.4%
(イ/D×100)	－%

(注)「(C)最近5事業年度の経常利益額の平均」には最近5事業年度の経常利益（経常損失である年度は零とする。）の平均を、また、「(D)最近5事業年度の当期純利益額の平均」には最近5事業年度の当期純利益（当期純損失である年度は零とする。）の平均を記載しております。

2. 業績予想の修正について

(単位：百万円)

○平成24年3月期通期個別業績予想との差異（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	12,268	1,391	1,394	738	71円90銭
実績値 (B)	12,077	1,585	1,591	863	84円06銭
増減額 (B)－(A)	△190	194	197	124	－
増減率 (%)	△1.6	114.0	114.2	116.9	－
(ご参考) 前期実績 (平成23年3月期)	11,691	1,380	1,392	823	80円11銭

3. 修正の理由

通期の個別業績予想との比較におきましては、売上高は前回発表予想をほぼ達成いたしました。また、利益面におきましては、生産効率のアップ、経費削減などを行い、さらには上記の投資有価証券評価損の戻入れなどから営業利益、経常利益及び当期純利益はいずれも前回発表予想を上回る結果となりました。

以 上